

平成23年9月18日
今週のベストショット



H23. 9. 18 雁レクD 奈多サンデーズ 対 三苦ホーネッツ戦

奈多サンデーズの全勝を止める決勝打を放つ三苦ホーネッツ2番稲葉紘一遊撃手。いい当たりではなかったが、球に食らいつく執念が実を結んだ。(写真：雁ノ巣ライナーズ 三宅基裕)

奈多グラウンド

三友クラブ	000002	2	勝投手：安達	HR：なし
奈多クラブ	000000	0	負投手：今林瑠	HR：なし

試合は緊迫した投手戦となった。奈多クラブ先発今林瑠投手は三友クラブ打線を五回まで完全に抑え、圧巻の無安打ピッチング。また三友クラブ先発安達敬祐投手も尻上がりに調子を上げ、得点圏にランナーを許してもホームを踏ませないというベテランらしい落ち着いたピッチングだった。均衡を破ったのは、三友クラブ3番清水幸一選手のレフト前ヒット。ここから死球、安打が続きワンアウト満塁のチャンスで6番駄原孝一郎選手が2点タイムリーを放ち試合を決めた。1本のヒットが勝敗を決めた非常に見応えのある試合だった。(記事：三苦三球会 堺和彦)



三友クラブ3番清水紘一選手の価値あるチーム初安打。この1本が緊迫した試合を動かした。



五回まで三友クラブ打線を完全に抑えた込んだ奈多クラブ先発今林瑠投手。援護があれば・・・。

青松園A

三苦フレンズ	0 2 0 0 7	9	負投手：塔本	HR なし
ソルトベイスターズ	6 0 0 6 X	1 2	勝投手：中村（耕）	HR なし

三苦フレンズは初回、ソルト石井和人二塁手の好守にも阻まれ三者凡退。対するソルトベイスターズは、リズムをまだ掴めていないフレンズ塔本真投手を攻め立て、3番酒井哲朗選手の2点タイムリー二塁打や、満塁からの6番田中裕次郎選手のタイムリー等で6点を先制した。追いかけるフレンズは二回表、四連打で2点を返すものの四回裏に集中打を浴びさらに6失点。五回には、エラーでリズムを崩したソルト中村耕一郎投手から5点を奪い、さらに無死2、3塁としたものの、ここで交代した中村祐人投手を打ち崩せず二者走者を返すだけに留まった。三苦フレンズは、初回の塔本投手の立ち上がりしが悔やまれる結果となった。（記事：新町ウインズ 早田主大）



先制タイムリーを放ったソルト3番の酒井哲朗選手。



五回裏、満塁からセンター前タイムリーを放つフレンズ4番の寺山栄一選手。



ソルト先発の中村耕一郎投手。



間に合うか??



緊急登板となったソルト中村祐人投手。



フレンズ先発の塔本真投手。

雁レクD

奈多サンデーズ	0 0 1 2 1 0	4	負投手：江口	HR：八島
三苦ホーネッツ	3 0 1 1 0 x	5	勝投手：矢野	HR：広木

全勝のサンデーズと1敗1分で追うホーネッツの戦い。優勝争いをするチーム同士の戦いとしてふさわしく、手に汗握る一進一退の展開となった。初回サンデーズは、二死から、2人のランナーを出すものの、5番野々下利生久選手の右中間への大飛球をホーネッツ広木俊輔中堅手がキャッチし無得点。その裏ホーネッツは、1番山崎健太郎選手が四球で出塁すると、2番稲葉紘一選手の右線三塁打・3番矢野義幸選手の中前打などで3点を先制する。三回には4番広木俊輔選手が左越え本塁打で1点追加。さらに四回には内野安打と盗塁の山崎選手を二塁において稲葉選手の右前タイムリーでさらに1点を追加した。対するサンデーズは3点ビハインドで迎えた三回、左中間三塁打の1番木下隆弘選手を二死から4番八島久徳選手が投手強襲安打で迎え入れて反撃開始。続く四回には、四球と内野安打2本で一死満塁とし、木下選手が技ありの中前打を放ち2点を返すが、自身は二塁タッチアウトで二死三塁。続く2番荒口健二選手の打球は右中間を抜けるかと思われたがホーネッツ山崎右翼手のスパーキャッチでチェンジ。その後、五回には八島選手の左線本塁打で1点差まで詰め寄るが反撃もここまで。ホーネッツが1点差で逃げ切り、サンデーズに初黒星をつけた。初回サンデーズが先制のチャンスを迎えた場面で、野々下選手の中越え大飛球を後方芝生エリアで好捕し、先制点を許さなかったホーネッツ中堅手・広木選手のプレイや、四回のサンデーズの反撃ムードを断ち切った右翼手・山崎選手のプレイ、この2つは、サンデーズの勢いを止める大きな要因となった。（記事：雁ノ巣ライナーズ 三宅基裕）



一回表サンデーズ野々下利生久選手が右中間に大きな当たりを放つも捕られ、先制機を逃す。



三回裏、再び3点差とする貴重な左越えHRを放ったホーネッツ4番広木俊輔選手。



三回表、無死三塁が二死となるも、サンデーズ4番八島久徳選手がピッチャー強襲安打で初得点。



四回裏、二死二塁からホーネッツ2番稲葉紘一選手が一塁手の脇を抜ける決勝タイムリー二塁打を放つ。



五回表、1点差として押せ押せのサンデーズだが、野々下選手が盗塁を刺される。



中継が逸れる間に三塁を陥れるホーネッツ 稲葉選手の抜け目ない走塁が光る。

青松園B

奈多フェニックス	6 0 1 1	8	勝投手：池見	HR：なし
新町パイレーツ	1 0 4 0	5	負投手：吉田	HR：桐島

初回、フェニックスは相手の守備の乱れなどに便乗し、一挙6点を先制する。その裏パイレーツも切り込み隊長1番桐島涼選手の三塁打でチャンスを作ると、内野ゴロの間に1点を返す。三回裏には、またも1番桐島選手のソロホームランや連打などで4点を返し、一時は2点差まで迫る。しかし、フェニックスのエース池見和彦投手が要所を押さえて勝利を勝ち取った。フェニックスの打撃力の強さが光る試合であった。（記事：レッドサンデーズ 鳥羽晃弘）



追いつけられながらも、全勝を守ったフェニックス池見和彦投手。



初回の6失点が痛かったパイレーツ吉田崇浩投手。



フェニックス3番実延新伍選手のタイムリーで先制のホームを踏む今林文彦選手。

第17週編集後記

WSLの皆さん、コンニチハ！

台風の影響が心配されましたが、無事に4試合行うことが出来ました。

雁レクDの首位奈多サンデーズと4位三笥ホーネッツの注目の一戦は、グラウンドルールが先取点を左右しました。是が非でも先取点が欲しいホーネッツを苦手になっているサンデーズは、フェンスのない球場の特徴を生かしたホーネッツ外野陣の深い守備に先取点を阻まれ、初回到失点の多い今年のサンデーズから足の速い1～4番で3点をもぎ取ったホーネッツは、その機動力を守備にも活かして一度も追いつかれることなく逃げ切りました。ホーネッツ矢野投手は、強烈なピッチャー返しを右手に受けつつも最後まで投げ抜きました。奈多グラウンドの三友クラブ対奈多クラブ戦は、両チーム息詰まる投手戦でしたが、散発3安打の奈多クラブに対し、今林瑠投手に5回まで無安打に抑えられていた三友クラブは、六回一死から四球を挟んでの三連打を連ね、見事2-0で勝利！三友クラブ足立投手は、二度あったランナー三塁のピンチを三振で切り抜けています。ここぞと言うときに三振が取れるピッチャーは強いですね。奈多クラブ今林瑠投手は初安打を打たれて気落ちしたのでしょうか、四球に連打と崩れてしまいました。まだ20歳ですから、精神的にも大きくなって、リーグを代表するエースになって欲しいです。青松園Aのフレンズ対ソルト戦は、何とも派手な点の取り合いでした。青松園Bのフェニックス対パイレーツ戦は、初回到単打5本と相手エラーに乗じたフェニックスがパイレーツの追撃を振り切り勝利し、ただ1チーム全勝を守っています。パイレーツは今シーズン No.1 投手の池見投手から5得点とよく取りましたが、いかんせん初回の失点が大きすぎました。パイレーツが実力を発揮出来れば、同時に全勝チームが消える可能性もあったのですが・・・。

さあこれで上位は、全勝のフェニックスを1敗の奈多サンデーズと三球会が追い、それを1敗1分けでホーネッツが追うという構図になりました。残り6週で、フェニックスは上位3チームとの対戦、奈多サンデーズはフェニックス戦、三球会はフェニックス・ホーネッツ戦、ホーネッツはフェニックス・三球会戦を残すという、試合日程を決める事務局長山崎さんのしたり顔が目につく展開となって盛り上がってきました。

投手が苦しいときは捕手が、バッテリーが苦しい時は野手が、野手が苦しい時は投手が、捕手が苦しいときは打線が、打線が苦しいときはベンチが踏ん張って行きましょう